

1

3年間の計画

|                   | 目標                                      | 平成29年度(2017年度)  | 平成30年度(2018年度)   | 令和元年度(2019年度)  |
|-------------------|---|---|--|--|
| 中学校ブロック<br>保幼小中連携 | “つながり”を深める。<br>保幼小中が一体となり、              | 教科指導[教育課程]を通じて、保幼・小、小中、小小のつながりを深める。<br><br><b>Plan</b><br>・月1回の幼小中担当者会の実施<br>・合同授業研で教科や教科外(支援・養護)部会の実施  | H29年度の成果をもとに、各校の交流を深め、それぞれの園・学校で実践にうつしていく。[生活面も含む]<br><br><b>Do</b><br>・月1回の幼小中担当者会の実施<br>・合同授業研の実施<br>(掲示物・カリキュラム・連携カリキュラムなど。)  | H29年度・H30年度の成果をもとに、目標実現にむけて、実践等の交流を深める。<br><br><b>See</b><br>・月1回の幼小中担当者会の実施<br>・合同研修会の実施<br>・課題を把握し、改善していく。   |
| 確かな学力の育成          | どの子もわかる、できる授業を構築していく。<br>(主体的・対話的で深い学び) | ①教員の授業力向上<br>・複数の学年が研究授業を行う。<br>・若手教職員の研修会<br>②学習会の設定<br>・学べる場として学習会を行う。<br>③言語活動の充実<br>・自分の考えを言語表現化する活動を多く取り入れ、書くことの習慣化を図る。<br>④読書活動の充実<br>・全校読書と読み聞かせの実施<br>⑤外国語教育の推進<br>・研修会を持ち、外国語の授業を充実させる。<br>⑥情報教育の推進<br>・ICTや情報モラルなどの研修会を持つ。        | ①教員の授業力向上<br>・全学年各1回の研究授業を行う。<br>・若手教職員の研修会<br>②学習会の設定<br>・学習会を行い、学力向上をめざす。<br>③言語活動の充実<br>・自分の考えを言語表現化する活動を多く取り入れ、書くことの習慣化を図る。<br>・「ことばのちから」の活用<br>④読書活動の充実<br>・全校読書と読み聞かせの実施<br>⑤外国語教育の推進<br>・研修会を持ち、モジュール学習を含め外国語の授業をさらに充実させる。<br>⑥情報教育の推進<br>・ICTや情報モラルなどの研修会を持ち、実践を進める。 | ①教員の授業力向上<br>・全学年各1回の研究授業を行う。<br>・若手教職員の研修会<br>②学習会の設定<br>・学習会を行い、学力向上に努める。<br>③言語活動の充実<br>・自分の考えを言語表現化する活動を多く取り入れ、書くことの習慣化を図る。<br>・「ことばのちから」の活用<br>④読書活動の充実<br>・全校読書と読み聞かせの実施<br>⑤外国語教育の推進<br>・研修会を持ち、外国語の授業実践を積み重ねる。<br>⑥情報教育の推進<br>・ICTや情報モラルなどの研修会を持ち、実践を深める |
| 豊かな人間性を育む         | 認め合い、支え合う集団を作る。<br>自分や友達を大切に、互いの違いや良さを  | ①生徒指導の充実<br>・いじめアンケートや実態交流により、いじめ・不登校・問題行動・虐待などの実態把握・早期発見に努め、適切な措置・対応を行う。<br>・SCやSSWとの連携<br>②人権教育の充実<br>・他共に違いや良さを認め合える人権感覚を育成するため、人権教育の研修会を行い、取組みを進める。<br>③道徳教育の充実<br>・「特別の教科 道徳」の実施に向けて、情報共有や研修会を行う。<br>・児童の道徳性の育成を目指し、深い学びのある道徳の授業を推進する。 | ①生徒指導の充実<br>・いじめアンケートや実態交流により、いじめ・不登校・問題行動・虐待などの実態把握・早期発見に努め、適切な措置・対応を行う。<br>・SCやSSWとの連携<br>②人権教育の充実<br>・他共に違いや良さを認め合える人権感覚を育成するため、人権教育の研修会を行い、取組みをさらに進める。<br>③道徳教育の充実<br>・「特別の教科 道徳」の評価を含めての研修会を行い、実践を進める。<br>・児童の道徳性の育成を目指し、深い学びのある道徳科の授業を推進する。                            | ①生徒指導の充実<br>・いじめアンケートや実態交流により、いじめ・不登校・問題行動・虐待などの実態把握・早期発見に努め、適切な措置・対応を行う。<br>・SCやSSWとの連携<br>②人権教育の充実<br>・他共に違いや良さを認め合える人権感覚を育成するため、人権教育の研修会を行い、取組みを深める。<br>③道徳教育の充実<br>・「特別の教科 道徳」の研修会を行い、さらに実践を重ねる。<br>・児童の道徳性の育成を目指し、深い学びのある道徳科の授業を推進する。                       |
| 健康・体力の増進          | 体を動かす楽しさを味わわせ、<br>体力向上・健康増進を図る。         | ①体育の授業の充実<br>・指導法の研修会の実施<br>・やさしい体育機器の充実<br>・茨木っ子運動の活用<br>②運動に親しむ場の設定<br>・なわとび・あったまろう週間・マラソン大会の実施<br>・体育館アスレチックの設置<br>・学級でのみんな遊びの設定<br>③食育や安全・防災教育の推進   | ①体育の授業の充実<br>・指導法の研修会の実施<br>・やさしい体育機器の充実<br>・茨木っ子運動の活用<br>②運動に親しむ場の設定<br>・丘ストレッチ・なわとび・あったまろう週間・マラソン大会の実施<br>・体育館アスレチックの設置<br>・学級でのみんな遊びの設定<br>③食育や安全・防災教育の推進   | ①体育の授業の充実<br>・指導法の研修会の実施<br>・やさしい体育機器の充実<br>・茨木っ子運動の活用<br>②運動に親しむ場の設定<br>・丘ストレッチ・なわとび・あったまろう週間・マラソン大会の実施<br>・体育館アスレチックの設置<br>・学級でのみんな遊びの設定<br>③食育や安全・防災教育の推進   |
| 支援教育の充実           |   |   |  |  |

## 2

# 今年度の結果と取組みについて

## (1) 全国学力・学習状況調査

### ○●国語●○

#### (領域ごと)

- |            |             |
|------------|-------------|
| ①話すこと・聞くこと | 良好な結果であった   |
| ②書くこと      | 大変良好な結果であった |
| ③読むこと      | 良好な結果であった   |
| ④言語事項      | 良好な結果であった   |

#### (問題形式)

- |      |             |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③記述式 | 大変良好な結果であった |

#### (無解答率)

概ね良好な結果であった

#### (その他)

- 最も正答率が低く、無解答率の高かった設問：(1 四 イ、ウ)  
文中の言葉を適切な漢字で書き表す設問
- 全国平均と比べて無解答率の高かった設問：(3 二)  
質問の工夫として適切なものを目的に応じて選択する設問

#### 分析

14ある設問のうち、13の設問が全国の正答率を上回った。領域別にみても、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「言語事項」の全てで全国平均を上回っている。最も正答率が低かった1四(1)ウの正答は「関心」だが、「感心」と誤答した児童が多かった。これは、同音異義語の理解や使い方が十分に定着していないと思われる。また、前後の文脈を正しく読み取ることができずに間違った児童が多かったのではないかと考えられる。今後も、間違えやすい同音異義語については、短文作りをしたり、辞書で正確な意味を調べたりして、文中で正しく使用できるように指導していく必要がある。同じく全国平均より正答率が低かった1四(1)イは、「かぎらず」を漢字で書く設問だったが、日頃の授業の中で意識的に習った漢字を使うようにしたり、繰り返し漢字の復習をさせたりして定着させたい。

「話すこと・聞くこと」の領域において、3二の「目的に応じて、質問を工夫すること」に課題が見られた。インタビューをする際、目的を明確にして、必要に応じて言葉を変えて聞き直したり、再度説明を求める質問をしたりするなど、質問の仕方を指導していくことが大切である。

## ○●算数●○

### (領域ごと)

- |       |             |
|-------|-------------|
| ①数と計算 | 大変良好な結果であった |
| ②量と測定 | 良好な結果であった   |
| ③図形   | 良好な結果であった   |
| ④数量関係 | 良好な結果であった   |

### (問題形式)

- |      |             |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった   |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった   |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

### (その他)

- 最も正答率が高かった設問 : 1(1)、2(1)
- 最も正答率が低かった設問 : 3(2)
- 無解答率の高かった設問 : 3(2)

○全国平均と比べて正答率の高かった設問 : 1(3)

### 分析

14ある設問のうち、1(3)を除いたすべての設問で全国の正答率を上回っている状況であった。1(3)は、減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に注目して書く問題である。誤答としては、正答の条件3つのうち、2つにしか言及していない解答が多く、全体の35.2%を占めた。式の意味を理解せず機械的な計算を行っているところに課題があるので、今後の指導としては、普段の授業からなぜそのような式になるのか、意味をきちんと理解できるような授業づくりを行う必要がある。

無解答率について全国と比べると、2(4)を除いたすべての設問で下回っている状況であった。

問題形式別正答率は、全国のもの比べるとすべての形式で上回っている状況であった。しかし、記述式の正答率は他の問題形式と比較して低い結果であった。今後の指導としては、低学年のうちから国語科での作文指導などをとおして、根拠をはっきりさせて自分の考えなどを文章にする機会をどの学年においても継続的に行う必要がある。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

全体的には、国語、算数ともに全国平均を上回っており、高い水準を維持している。

教科別にみると、国語においては、前年度より平均正答率の上昇が見られた。算数においては、前年度に上昇傾向が見られたが、今年度は平均正答率が下がっている。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

国語においては、学力高位層の割合が増え、学力低位層の割合が減っている。

一方で、算数においては、学力低位層の割合は減っているものの、学力高位層の割合も昨年度より減っている。引き続き、学力高位層を増加させ、学力低位層を、中位層、高位層へ押し上げていけるよう、学校全体で取り組みを進めていく。

## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

本校の重点的取組みの1つ目は、教員の授業力アップである。今年度の重点目標として進めているのは、「外国語活動」の取り組みである。高学年を中心に、週3回、朝の時間にモジュールとしての取り組みをし、さらに研修会や研究授業を行い、外国語の授業実践を積み重ねている。また校内での研究授業や研修会をはじめとして、中学校区との合同研修会などを行い、教職員が互いにレベルアップできるよう、創意工夫している。また、校内自主研修会などを定期的に行うことにより、先輩教職員の授業や取組みから学び、子ども達と共に魅力ある授業を作れるよう切磋琢磨している。

2つ目は、学級集団づくりである。本校の人権部の重点取組みである、質の良い学級・学年集団を形成していくことが子どもたちの心身の成長や学力形成に最も重要であると考えている。何事にも意欲を持って取り組める子や、友だち同士、高め合える集団の育成、学びを深めることができる学級を作ることが学力向上につながるため、様々な行事や取組み、研修会などで教職員の学びを深めている。

3つ目は、学習がわからない子を減らすことである。学習サポーター2名と連携協力し、学力の引き上げを行っている。年度当初だけではなく、毎週学校全体の子どもの様子や状況などを会議で共通理解し、必要なところに配置できるようにしている。ただ授業に入ってもらっただけではなく、支援の必要がある子どもの課題状況を担任や授業者と共有し、必要に応じて抽出して学習を見るなど、きめ細かな指導ができるようにしている。子どもたちにとっても苦手なことを克服でき、学習意欲の向上につながっていると思われる。授業に入った時の子どもの様子をファイルに書いてもらい、担任とサポートの連携を取れるようにしている。

今年度も、夏休みの学習会を3回行った。教室を開放し、算数や夏休みの宿題を中心に複数の教師で指導を行った。子どもたちも意欲的に取り組むことができた。今後も一斉指導で理解しにくい子を中心に定期的に学習会を行えるようにしていきたい。

4つ目は、読書推進である。図書館支援員1名が配置され、毎日、休み時間の図書室開放ができるようになった。子どもたちも本を借りる機会が増え、貸出冊数も増えてきている。「読書貯金通帳」に取り組むことで、子どもたちの読書意欲も高まっている。2学期後半には、読書週間で「おすすめの本を紹介する」という取組みも行っている。授業に必要な本を随時用意してもらえるようになり、有効な図書館活用もできるようになってきた。毎週金曜日の朝の時間には全校読書を設定している。この時間に保護者のボランティアの方が、全学年で読み聞かせを行ってくれている。合わせて週に一度、保護者のボランティアの方が休み時間に図書室で読み聞かせを行ってくれている。聞きに行く児童も増えてきている。昨年度は図書委員会が主体となって、高学年児童による低学年児童への読み聞かせも行った。今後も本に親しむ子が多く育つ環境を作っていきたい。

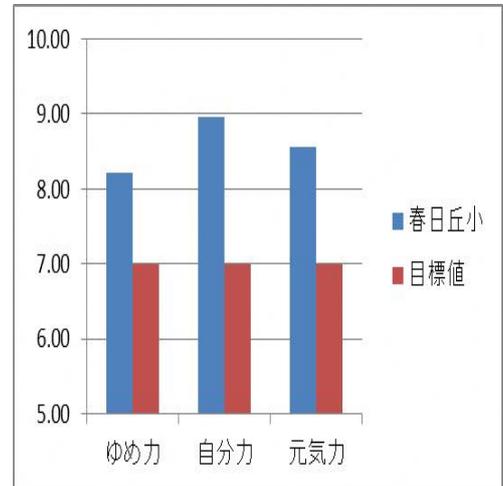
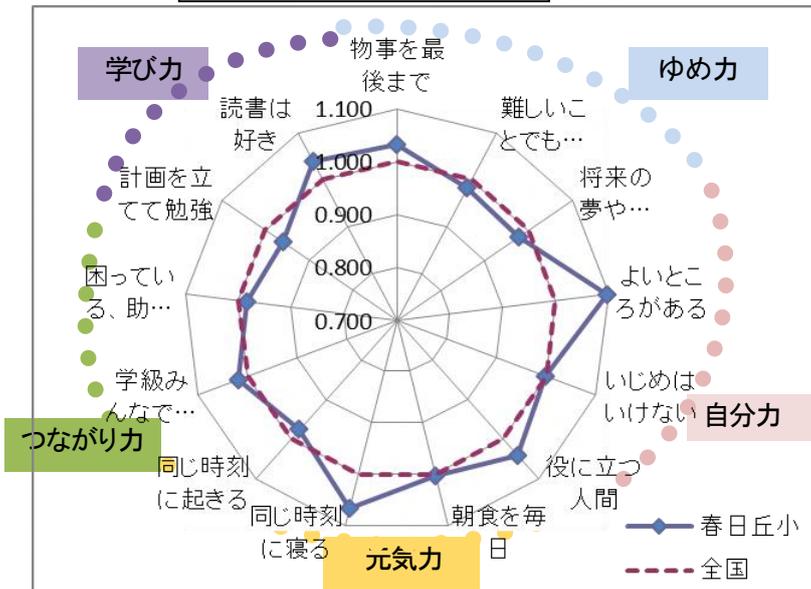
5つ目は中学校ブロックでの保幼小中連携の取組みである。教職員が連携・協力して、児童・生徒の実態や課題を共有し、共通のカリキュラムを作成し、公開授業を見合うことで授業の改善や学び合いにつながっている。

最後に、学力向上の取組みを機会があるごとに振り返り、子どもたちの実態に即した取組みを行えるようにしたい。

# ○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較

5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は13項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

## 分析

『ゆめ力』の「将来の夢や目標を持っている」の項目は、全国平均を下回っていた。将来、自分がやってみたいことや目標が、比較的イメージできていない子どもが多いと思われる。

『自分力』の「良いところがある」と「役に立つ人間になりたい」の項目は、全国平均を上回った。「いじめはいけない」の項目は、少しポイントが低かった。自分自身を肯定的にとらえているところはとても良いが、それと同時に相手を大事に思う気持ちも育てていきたい。

『元気力』では、「朝食を毎日食べる」と「同じ時刻に寝る」は全国平均を上回っているが、「同じ時刻に起きる」については下回り、その背景には、習い事や家庭学習に追われて、決まった時刻に寝る習慣が身につけにくい環境があるのではないかと考えられる。

『つながり力』の項目では、「困っている人を助ける」が下回っている。他人に関心を持ち、相手を思いやることの大切さを伝えていきたい。

『学び力』では、「読書は好き」は上回っている。「計画を立てて勉強している」の項目は、やや下回った。決められた事をやり遂げる力はあっても、自分でやるべき事を計画して実行するのはやや難しいと思われる。

自分の夢に向かって様々なことに挑戦するのは大事であるが、まずは主体的に行動する力を身につけさせたい。また、いじめは絶対にいけないという心を育み、相手も自分も大切に思い、学校生活を送れるように促していきたいと思う。

## 取組み

これまで学校で取り組んできた人権学習などが、自己肯定感を高めることにつながっていることは成果と思われる。これに続き、他者を思いやる心を育む学習を、校内全体でさらに進めていきたい。

自分の思いを相手に求めるだけでなく、相手の立場を理解しようとする態度を育み、子ども同士がつながることで、だれもが安心して過ごすことのできるクラスや学校を目指していきたい。

さらに、計画的に自分で学習を進めていく力も必要になってくる。家庭に帰ってからどのように過ごし、学習に向かうのか、家庭とも連携を図りながら、将来を見据えて子どもたちの学ぶ意欲を育てていきたいと考える。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

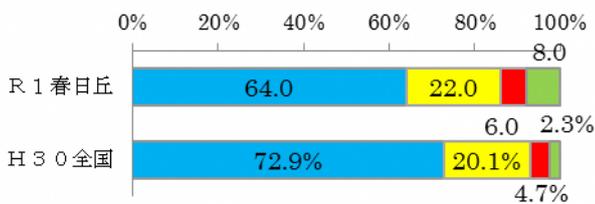
●●体力●●

男子 (小5)

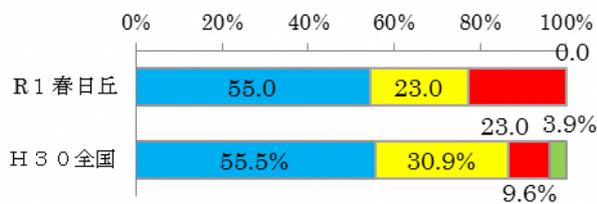
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



好き やや好き ややきらい きらい

分析

今年度の体力テストでは、男女ともに「反復横とび」で全国平均を上回り、「握力」「上体起こし」「50m 走」ではやや下回ったもののほぼ全国平均と同じ記録であった。また、市平均と比較すると、男子では8種目中4種目、女子では8種目中3種目で上回る結果であった。一方で、記録が伸び悩んだ種目は、男女ともに「立ち幅跳び」、「長座体前屈」であった。

今年度の体力テストで「反復横とび」が良好な結果だったのは、体力テストを行う前に学年で記録方法や練習方法を共有し、児童への指導に活かされたことが要因と考えられる。継続して取り組んでいきたい。

また、「ソフトボール投げ」は全国平均を下回っているものの、経年比較すると男女ともに全国平均に近づきつつある。これは、前年度の体力テストの結果を受け、「投げる力」に対する指導に重点を置いた結果であると考えられる。

一方で、「長座体前屈」においては、今年度も課題が残る結果となった。改善に向け、前年度から取り組んでいる「丘ストレッチ」の取組みを継続し、ケガの少ない柔軟な身体づくりを目指していきたい。

取組み

- 体育の授業をととして、子どもたちが体を動かす楽しさを味わえるようにしていく。体育機器も、子どもたちが使いやすく、様々な運動・運動遊びに取り組むことのできる物を用意していく。
- 柔軟性を高めるために、「丘ストレッチ」の取組みを継続し、ケガの少ない身体づくりをすすめる。
- なわとびやマラソン週間の機会をととして、クラスや個人で目標を立て、子どもたちが意欲的に取り組む力も育んでいく。
- ラダーやジャンピングボードを常時設置し、いつでも活用しながら体を動かせる場をつくる。
- 体育部会を中心に各学年系統立てたカリキュラムを作成し、6年間で必要な力が身についていくようにしていく。